

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3 指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 37,751 人 (前年度比 90.9 %) 令和元年度 41,508人 平成30年度 36,530人 平成29年度 32,396人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 65,939 千円 (55,202 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>10周年を迎えた。「新生活様式の子育て」「今、地域の中で何ができるのか」を考えながらの運営する一年であった。</p> <p><児童健全育成事業></p> <p>休校期間、高学年ボランティアグループ「トミザワイレブン」に、アンケートを郵送で行った。「不安な中でも、何か楽しみを見つけたい！」「明るい世界になって欲しい！」という思いが溢れる集計結果となった。子どもたちの思いを受け、登校日に合わせて塗り絵や簡単レシピなどを作成し「おうちであそんじゃおセット」を全学年に配布した。学校再開後、作成したものを見せに来てくれる児童や保護者の方から感謝の手紙をいただいた。</p> <p><子育て家庭支援事業></p> <p>「地域の中で友だちができない」という多くの声から、親子遊び『とみっくす』を行った。申込数が増加したため、年齢ごとのプログラムへ変更し、親子で出会うきっかけづくりや育児相談などの役割を担うことができた。「ジェミニの会（多胎育児）」と共催事業を年4回行うことができた。多胎育児家庭へも参加を呼び掛けた。買い物以外に初めて外へ出た親子も多く、子育て支援の形を今後も考えていきたい。</p> <p><地域交流推進事業></p> <p>子育て支援クラブ「レインボーズ」の後押しもあり、10周年「ありがとうの日」を企画し、バルーンアートや遊びコーナーを実施。出かける場所も少ない中、短時間でも楽しい時間を過ごせたと地域の方から喜びの声を多くいただいた。</p> <p><放課後児童健全育成事業（児童クラブ）></p> <p>登録児童増加に伴い、高学年の利用も増え、本館とサテライト室の居場所づくりを再検討した。5年生が1年生の遊具作成をしたり、1年生が6年生の手先の器用さを見たりすることにより、高学年が低学年の憧れの存在になっていった。小学校で縦割り活動が制限される中で、子どもたちそれぞれが認め合う姿は大切な時間であった。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。その中で、子育て支援クラブの協力のもと10周年を祝う「ありがとうの日」を開催し、地域の乳幼児親子や子ども達に遊びの場を提供し、好評を得た。</p> <p>健全育成事業として当館で行われている代表的な事業である「地球探検隊」での自然活動や「トミザワイレブン」の高学年及び中学生のボランティア活動は、様々な制限のある中ではあるが感染対策をしながら開催し、子ども達に豊かな自然活動の場の提供やリーダー育成、健全な心身の発達や自主性の育ちを支援することができた。</p> <p>放課後健全育成事業としては、サテライトで過ごす子ども達の行事の参加や遊びの経験の機会を保障していくために、サテライト単独行事「Book for satellite」と「Craft for satellite」を新しく立ち上げ、おはなし会や工作遊びの機会を設けた。児童クラブの支援にも職員間での連携を取りつつ取り組む中で、思春期を迎える高学年の子ども達への細やかな支援だけでなく家庭との関りにおいても丁寧な支援に努めている。</p> <p>子育て家庭支援においては、少数ではあっても本当に支援を求めている家庭に届く細やかな支援を行いたいという思いのもと、新しく多胎育児サークル「ジェミニの会」との共催行事に取り組み、多胎児の親子に特化した季節行事などの事業を行ったり、「たんぼぼホーム」の職員が児童館の行事に参加する機会を設け、子どもの発達に遅れや心配のある保護者が相談しやすい環境を作ったり、様々な取り組みを通して支援の場を整えており評価できる。また、「とみっくす」として行っていた遊びの提供の機会を途中で見直し、各年齢での行事としてより多くの乳幼児家庭が安心して利用できる遊びの場の提供を行うなど、子育て家庭も多い地域でのニーズに応えた事業展開で地域の子育て家庭支援の拠点としての役割を果たしている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課